

災後復興ノ費之ヲ外債ニ依ルベキコトヲ議スル者多シ某等政府
 當局ノ意圖ノ存スル所ヲ與リ知ラズト雖モ其ノ不可ナルヲ進言シテ
 謹ニ採擇ヲ請ハント欲ス凡ソ外債ノ容易ニ起スベカラサルハ當
 然ナリ爲メニ財政ノ困難ヲ招キ國民經濟ヲ不健全ナラシムルニナラ
 ス引イテ國家其ノ者ノ立脚地ヲ動揺スルニ至ル思フニ今次ノ震
 災ノ損害タル大ハ即チ大ナリト雖モ未ダ我が國民財力ノ負擔シ
 得ル所ヲ超エト爲サズ又若シ之ヲ其ノ負擔ニ堪ヘスト爲レモ
 國民ニ適應スルヲ以テ復興ノ自度ト爲スベキハ某等ノ固ヨリ主
 張スル所ナリ若シ國債ヲ起スニ非カレバ其費ヲ弁スルニ足ラスト
 爲サハ專ラ之ヲ内債ニ依ルベキニ或ハ曰ク英米諸國民ノ同情今
 正ニ酣ナリ乘シテ外債ヲ募ルベシト他ノ憐愍ノ情ヲ利用シテ國策

ヲ決セントスルノ陋者ハ暫ク之ヲ忍ハシモ一時ノ同情ハ決シテ數歲ノ
 負擔ト相伴フモノニ非ハルコトヲ知ラハルベカラズ人或ハ震災ノ損
 害ヲ歐洲諸國ノ大戰ニ由リテ被レルノ損害ニ比シ自^{慰ル者アリ然レ}歐洲諸國
 ハ戦争ノ遂行ノ爲メニ外債ヲ起セルモ戦後其ノ回復ノ爲メニ外債
 ヲ募ルハ未カ之ヲ聞フサルナリ而カモ尚ホ之ヲ歐洲諸國ノ戦争
 ニ由ルノ負債ニ比スヘシトスルモ彼等列強中目下如何ニ其ノ巨額ナル
 對外負債ノ爲メニ苦惱シツアルヤニ想到セハルベカラズ爲メニ國
 際間其ノ正當ナル要ホヲ阻マレ債權國ノ跋扈跳梁ヲ見テ疾
 ヲ飲ニテ其ノ願使ニ甘ンセハルベカラハルノ境遇ニ居ルハ人ノ普ク知
 ル所ノ如シ論者ハ我が日本ヲ驅テ歐洲列國ト共ニ其ノ窮地ニ陷
 レントスルカ我が財力ノ貧弱ナルカ爲メノ故ニ海軍ノ制限ヲ強サラレ
 壓迫的條約ニ調印セハルベカラハリニ甚痛ナル經驗ハ昨猶ホ

今ノ如ク日本國民ノ忘レハル所ナリ然ルヲ今故ラニ我ヲ外債ノ極
 楷ノ下ニ置劣ニトスルハ果シテ何ノ意ソヤ某等ハ徒ニ排外強硬ヲ
 主張スル者ニ非ズ唯カ将来不當ナル軍備ノ縮クヲ強要セラルル
 モ甘ニシテ之ニ聽從セハルベカラズ遂ニ朝鮮ヲ失ヒ支那ヲ逐ハルル
 端ニヨリ開カレニコトヲ恐レテ止マサルノニ國民ノ信賴ヲ受ケ國家ヲ
 双肩ニ擔フ者何ニソ一旦ノ美名ニ欺カレ一時ノ便宜ニ誘ハレ國家ヲ陷
 レテ脱スベカラハルノ運命ニ道ヲクハケンヤ外債ノ事最モ慎重
 ナフハルベカラハルナリ

九

九月一日震災ノ起ルヤ所々火ヲ発シ老幼道ルル所ヲ知ラズ阿鼻叫
 喚全市忽ニシテ焦熱地獄ト化ス火ノ時ニ當リ不逞ノ鮮人四方ニ蜂
 起シ爆彈ヲ投ジ石油ヲ注ギテ官廳公署ヲ焚キ巷路ヲ走リ小

徑ニ替入シテ類ニ火ヲ民家ニ放ツ其ノ各處同時ニ起レルハ偶發的
 ニ非ズ何等カ豫定ノ計畫ニ出ツルコトヲ察知スバク社會主義者
 無政府主義者ノ混乱ニ乘ジテ不揆ヲ圖ラントスル者相策應シテ
 ニヲ煽動シシヲ誘導セルコトモ亦明ナリ市民困迷シテ爲ス所ヲ
 知らズ徳ニ右往左往スルノ火翌二日ニ至リテ熄ズ焰炎天ヲ焦
 ス民心極度ノ不安ニ陥レルトキ忽チ飛報ノ震災地一帯関東一
 國ニ傳ハルマリ鮮人大挙籠来スト警言察官ヲ挙ケテ東ニ奔リ
 西ニ驅ケ叫聲ヲ揚ケテ警言ヲ各町各村ニ傳ヘ民衆ノカヲ鮮人檢
 挙ニ疑ハハシコトヲ求メ到ル處街頭ニ貼リ紙ヲ爲シ警言察署ノ
 名ヲ記シテ民衆ノ援助ヲ勸メ獨リ放火スルノミナラス毒物ヲ井中
 ニ投シ毒物ヲ混ジタル食物ヲ散布スト爲ス民衆ノ驚愕恐怖
 措ク所ヲ知らズ當時敬言察力ハ極度ニ減退シ殆ト無警言察

ニ此ニ是ニ於テ民衆結束シテ自警言團ヲ組織シ皆武器ヲ携
 ヘテ階梯保ヲ敬言備ス到ル處不逞ノ鮮人ト衝突シ恐怖ト憤激
 ノ餘之ヲ撃殺スル者アルニ至ル而シテ民衆ハ直毛モ之ヲ悔井ハルテ
 リ蓋シ此ノ慘禍ニ乘ジテ其ノ暴ヲ逞クスルノ非人道ヲ悪ク台
 ト極度ニ達シタルノミナラス官生思モ亦之ヲ當然ナリトシ手ニ餘ラ
 バ之ヲ殺スモ亦已ムヲ得ズト聲言セリト云フモノ民衆ノ耳邊ニ聞
 エタレハナリ之レ九月日ヨリ三日ニ至ルノ實情ナリ今某等ノ美人
 皆目撃ヲ周知スルノ如上ノ實情ヲ叙スルノ如ク詳細ナル所
 以ノモノハ四日頃ヨリ政府殊ニ敬言視廳が忽然トシテ宣傳シテ
 鮮人及社會主義者ノ放火非行ハ全然才分ノ痕跡モ無キ訛
 傳^リテ從テ民衆ノ之ヲ街路ニ撃殺セルモ亦全然事實ニ非ズト
 云フニ至リタレハナリ敬言視總監ハ彼ノ爆彈ナルモノ之ヲ拾テ見
 九

夕心林檎ナリシト民衆ノ輕率狼狽ヲ嘲笑シ政府ハ極力内外
 ニ鮮人非行ノ跡方モナキコトヲ宣傳スルコト今白ニ至テ尚ホ止マ
 ホルナリ某等不敏ニテ政府當局カ何カ故ニ此ノ如キ態度ヲ
 執ルヤヲ鮮スルコトヲ得スト雖モ若シ口舌筆紙ノ宣傳ニ依リ
 テ彼ノ九月一日ヨリ三日ニ至リ数百家人カ現然目撃シ身ヲ以テ
 之ヲ體驗セル終生忘レ難キ鮮人騷動ヲ一抔ニ去リ天下ノ耳目
 ヲ欺スベシト爲スナラニハ人ヲ愚ニシ自ラ愚ニスル又餘リニ甚カ
 シト爲サハルヲ得ズ政府當局ノ意タル恐ラクハ民衆ノ鮮人ヲ
 殺戮セルノ事實カ外國ノ爭議ヲ招カンコトヲ恐ルルニ在ラシ然
 レトモ此ノ事實ハ最早ヤ蔽ハントシテ到底之ヲ蔽フベカラハル
 ナリ然ルヲ若シ政府責任ヲ以テ鮮人非行ノ事實ナシト聲明
 セバ秘ヲ責メントスル者ハ鮮人ニ非行無シ鮮人ハ皆日本政府

ノ言フカ如ク温良樸直ナルニ日本人独り残忍凶陰無辜ヲ
 虐殺スト爲サン寧口事實ヲ赤裸々ニ表白シ彼大疫ニ乘ジテ
 非行ヲ逞クスルノ非人道ナルニ對シ民衆ノ激白印憤怒セルノ自然ナルヲ
 明瞭ニ知ラセラルニ如カス然ラニハ強井テ辭ヲ構ヘテ我ヲ讒陷セシ
 トスル者ト雖モ乘スルニ隙ナカラシメ某等ノ調査スル所ニ依レハ
 鮮人非行ノ事實極メテ多ク其ノ證據真ニ歴然タリ別ニ添附
 スル所ノ同志内田良平等ノ調査書ハ其ノ一斑ヲ示スニ足ル(別
 紙亦三号當局ノ手中ニモ恐クハ数多ノ材料アラシ某等切實
 ニ悉ク之ヲ發表シ天下ニ鮮人不足ノ事實ヲ知ラシメシトヲ希
 望ス獨リニテ外國ニ對スルノ關係ニ於テ必要トスルノニ非ズ實
 ニ我カ朝鮮統治上ノ大問題ナリ聞クカ如クニハ朝鮮ニ於テ初
 鮮人ノ多数撃殺セラルルノ報達セルモ鮮人ノ非行自ラニテ招

+

ケルヲ聞キテ却テ恐縮ノ態アリシモノ復幾ハクモナク鮮人非行
 ナキノ當局ノ声明ヲ見テ遽ニ動搖ノ色アリト云フ即チ知ル政府ノ
 態度ハ好シテ内鮮ノ融和ヲ防ケ朝鮮統治ノ前途ヲ困難ナラ
 シムルモノタルヲ願フハ速ニ耳ヲ敞フテ鈴ヲ竊ムノ陋態ヲ改メニ公明
 正大ヲ旨トシ世界ニ向テ事實ハ事實トシテ之ヲ公表シ内外ノ了
 解ヲ求メ無辜ヲ循良ノ鮮人ハ人皆力ヲ尽クシテ之ヲ保護庇蔭セ
 ルノ事實モ亦少カラサルヲ示シ日本人ノ混雜ニ方リテ必ズシモ理性
 ヲ喪フモノニ非ハルヲ明シ恩威共ニ理ニ合スルヲ知ラシメバ朝鮮
 統治ノ道必ズヤ坦タルモノアルニ至ラン

十

震災ノ直後民心極度ノ不安ニ陥リ物情洶々ナリ警察官ト
 雖モ死傷甚カ多ク踪跡ヲ知ラズ然ラサルモ皆奔走ニ疲レテ矣

洵々タル不安ニ當ルニ足ラズ思ニ於テ民衆ハ隣保結束ニテ自
 ラ敬言戒セリ之ヲ真ニ機宜ノ處置ト爲サルハカラズニテ市中到ル
 處ニ設ケラレタル自敬言團ナルモノハ實ニ生ルバクニテ生レタル自然ノ
 産物ナリト爲スベク斯ノ如キ事ニ當リテ自ラ組織シ自ラ治ムル
 國民ノ精神ハ之ヲ最モ稱賛スバク之ヲ最モ將大勵誘掖スベキ
 ナリ 然ルニ再來當局ハ自敬言團ヲ目スル恰モ不逞ノ暴徒ナルガ
 如クニテ自敬言團アリニカ爲メニ敬言察ハ其ノ活動ヲ妨ケラレ
 タリト爲シ自敬言團ノ凶暴危険ヲ罵リテ及ハハハラニコトヲ恐ル
 ルモノノ如シ某等ハ其ノ何ノ意ニ出ツルヤヲ解スルコト能ハズ凡ソ
 自敬言團ノ如キハ之ヲ誘道オシ之ヲ整理シ敬言察ノ補助カトシ
 テ善用スベキハ言フ俟タズ所謂敬言察ノ民衆化ナルモノハ當局ノ
 常ニ唱道セル所ニテ之ヲ實現スル正ニ好機ニ於テスベキナリ

然ルニ何カ測ラシ之ヲ敵視シテ漫ニ民衆ヲ罵ルコトヲ為サントハ
 某等其ノ状態ヲ見テ最モ恐ルベシト為ス蓋シ民衆カ之ニ憤
 激シテ遂ニ敬言察ト政府トニ對スル不平不満ノ感情ヲ勃發ス
 ルニ至ランハ實ニ必然ノ帰趨ナレハナリ 初メ敬言察無カナルノ故
 ヲ以テ自警團ヲ從心慊シ半ハニテ突然之ヲ有害ナリトシ甚
 カシキハ所在自警團員ヲ檢挙シ敬言視紙監自ラ自警團ハ
 無用ナリ民衆之ヲ設置スルハ眞ニ骨折損ナルノミ各人ノ物好きナ
 ル者ハ之ニ加ヒト言フノ意ヲ宣傳スルニ至テハ民衆タル者何カ卑
 劣奮激怒セサランヤ殊ニ混雜ノ當時ニ於テ官憲ハ民衆ノ手ニ
 餘ラハ不逞鮮人ヲ數キ殺スルモ可ナルノ意ヲ民衆ノ耳ニ響カセ
 メ置キ今ニ至テ翻然之ヲ殺人暴行ナリトシテ片端ヨリ檢挙
 スルノ態度ニ出ツルヲ見テ其憤怒ノ其極ニ達スルモ亦當然ナルノミ

当局者ハ民衆カ若シ我カ僚友ノ鮮人ヲ毆殺シタルノ故ヲ以テ殺人
 罪ニ問ハルコトアラハ民衆ヲ拳ルテ公判廷ニ至リ殺人ノ教唆者
 ハ敬言察官ナリト證言スベシト相語り居ルヲ知ラハルカ天下ノ大
 変ハ幾微ニ発ス民衆ノ激怒如ク如クニシテ櫛計積ニ遂ニ敬言察
 ヲ敵トスルニ至ツテハ治安ハ到底ニヲ維持スベカラサルノミナラス勃
 発シテ政府ニ對シ如何ノ乱調ヲ呈セシモ未タ知ルベカラサルナリ國
 家ノ深憂ハ實ニ是ニ兆セン某等ハ大政ニ當ル者ノ眼ヲ大局ニ注
 ガ本問題カ一時ノ敬言察ノ名譽威嚴ト云フカ如キ小問題ニ止マ
 ラハルコトヲ熟慮シ翻然省覺以テ意外ノ大變ノ不測ノ裡ニ
 醸サルルヲ未然ニ防カントコトヲ切望セハルヲ得ハルナリ。

十一

社會主義我ハ本来富ノ公平ナル分配ヲ要スルノ經濟主義我ナ

リ誰カ之ヲ非ナリトセシ然リト雖モ其ノ國家社會ノ現状ヲ見テ
 不平不滿ヲ懷クノ結果社會ノ秩序ヲ顛覆セシトヲ企圖
 スルノ實際運動トナルニ至テハ斷シテ之ヲ危険ナリト爲サハ
 ルベカラズ況ニヤ其ノ極遂ニ國家ヲ破壊セシトスルノ過激主義
 無政府主義トナルニ至ワテハ一歩モ進シ我ガ日本民族ノ建設
 スル日本國家ニ入ラシムベカラサルナリ其ノ嬌激ニ趨クヤ我ガ皇
 室ノ尊嚴ヲ藐視シ我ガ國體ヲ侵害セシトスル者アリト云
 フニ至テハ實ニ之ヲ建國以來ノ大變ト爲スベシ泰西ノ流風ニ化
 セラレ新ヲ喜ビ奇ヲ尙ヒ輕佻移リ易キノ人心ヲ煽揚シテ遂ニ
 金甌ノ國家ヲ危クスル弊カヲ成スコトアルニ至ランハ朝野識者
 ノ夙ニ憂慮措ク能ハル所ニテ廟堂諸公モ亦思フ匡救ニ
 致シテ餘カヲ殘サハラントスルヲ疑ハズ然ルニ現内閣ノ震災

ト共ニ成立シテ以來其ノ社會主義無政府主義者ニ對スル態度ハ局外ニ在リテ傍觀スル者ヲシテ多少怪訝ノ感ヲ懷カシルノ嫌アルハ某等ノ頗ル關心ニ堪エホル所ナリ政府ハ社會主義者無政府主義者ト相引録スルアリ隱ニ之ヲ庇護スト云フカ如キハ固ヨリ齊東野人ノ妄語全然之ヲ齒牙ニ掛クルニ足ラサルナリ某等ハ之ヲ信セント欲スルニ非ズ然カモ之ヲ關心ニ堪エホト爲ス所以ハ安ノ如キノ妄信ト雖モ民衆ノ間ニ浸潤シ流言蜚語ノ之ヲ百萬無知ノ人ニ喧傳スルニ至レバ其ノ結果甚ク危險ナルモノナルコトヲ恐ルハナリ況ニヤ政府者ノ行藏出處動モスレハ安ノ如キノ妄信ヲ強メントスルカ如キモノアルニ於テオヤ安ノ如クナレバ一ニハ一般民衆ノ危險思想ノ危險ナルヲ怖レ之ヲ嫌惡排斥スルノ情ヲ薄弱ナラシメ社會主義跋扈ノ勢ヲ助長スルニ至ラン震災ニナリ社

會主義者が慘禍ニ乘ジテ凶暴ナリシハ民衆ニ深ク其ノ惡ム
 ク恐ルハキヲ印象セリ之レ思想善道ヲ好機ニシテ識者皆震
 災ノ齷齪セル偶然ノ倖ヲ喜ヘルニ当局者ノ爲ス所茲ニ出テス民
 衆ヲシテ呵然タラシムル如キモアルハ真ニ遺憾ニ堪エサルナリ
 豈帝ニ之ノミナラシヤ某等ノ特ニ廟堂諸公ニ進言シテ親切ニ
 其ノ反者ヲ請ハントスルハ汝ノ如キノ趨執カニ委シテ進マハ遂ニ空躬ル
 所政府ハ反社會主義者タル國家主義ト双々対峙スルノ形情
 ヲ造リ出タスニ至ラシトナリ借問ス政府ハ闔國ノ國家主義
 者か如何ニ政府ノ行動ニ對シテ激怒シツツアルカヲ知ルカ草莽
 ノ深キ臺閣ノ人ハ恐ラクハ窺ヒ知リ誰カラシ某等目サニ之ヲ知
 ル其ノ一端ヲ言ハシカニ彼ノ陸軍憲兵大尉甘粕某カ無政府
 主義者大杉某ヲ毆殺セルノ事件ヲ見ル甘粕ノ國法ヲ侵セルハ

嚴ニテ討セラルベカラズ然レトモ甘粕ノ動機ハニ公憤ニ發シ其
 心事ノ報國ニ存スル天下ノ具瞻スル所一人ノ之ヲ疑フ者アルコト
 ナキナリ法ヲ執ル嚴明ナルヤキモ任ニ文政ニ在ル者ハ人心ノ趨ク所ヲ
 察シテ國民精神ヲ指導スルヲ心トセラルベカラズ若シ甘粕ヲ目スルニ
 普通ノ殺人ヲ以テセバ良民朴直ノ心ヲ何トカ云ハシヤ甘粕ニ對スル
 ノ處置自ラ別ニアリニナラン某等深ク之ヲ憾ムレト爲ス震災
 後ノ不安混亂ノ渦中ニ在リテ良民ノ官憲ノ手ニ死セルモ亦少シトセ
 ラルナリ然レトモ人ハ之ヲ以テ不可抗已ムヲ得ズト爲キ烏ニ知ラシ其
 ノ無政府主義者ナルトキハ當局ハ爬羅剔抉國法ノ守ラレ
 ルベカラハルヲ聲言ス國法ハ何か故ニ被害者ノ良民ナルトキハ無視
 セラルベク無政府主義ナルトキハ守ラレベシト爲サルカ良民ノ生命
 ハ輕ク無政府主義者ノ生命ハ重キカ人或ハ之ヲ憤リ之ヲ疑フ又故

ナシトセハルナリ聞クカ如クニハ當局ハ若シ甘粕ニテ不問ニ附セラレニ
 ハ社會主義者激昂蜂起ニテ大官ノ身邊爲ニ危ラシト爲セリト
 當局者元來社會主義者ヲ恐ルル事虎ノ如キハ某等ノ野鄙
 ニテ禮ヲ知ラハル常ニ之ヲ笑フ所ナリト雖モ某等之々怯懦ナラニハ何
 ヲ國家主義者ノ純正至忠ナル^{怒ニ對シテ怯}赫懦ナラハルヤ其ノ甘粕ノ一行爲ニ
 對シテ遂ニ憲兵司令官ヲ罷メ戒嚴司令官ヲ免セルニ至テハ政府
 ノ無政府主義ヲ見ル餘リニ重キ^{驚愕}セハルヲ得ズ人ノ之ヲ單
 純視セズ裏面ニ権謀情偽アリト疑フアルハ当然ナリ裏面ノ隱事
 ノ如キハ某等ノ固ヨリ與リ知ラニトヲ欲スル所ニ非スト虽モ唯カ一
 朝ノ過誤ハ不測ノ大變ヲ生ビニコトヲ恐レ國家主義者憤激ノ実
 情ヲ訴フルノミ流言ハ實說ニ混シ蜚語ハ真情ニ雜ハルモ理路ノ
 堆シテ尋ズ又ハキハ遂ニ之ヲ蔽ヒテ人目ヲ欺クヘカラス社會主義者

及無政府主義者ノ權門ニ出入スル頗ル多ク因縁甚ク深キ
 モノアリニ王子政府ニ媚ヒントテ會合シ甘粕ヲ讒毀スルカ如キ
 ノ事實ハ皆市井ノ風聞妙ノ偶語ト和シ無知ノ民ノ台閣
 重臣ニ對シテ之ヲ筆ニスルト能ハホルノ風評ヲ流布スル者
 アルニ至ル其ノ如クニテ社會ヲ病的ニ陷レシムル前途真ニ恐
 ルベキナリ某等ハ偏ニ尖ノ如キ見評ニ乘セラルル當局ノ態度
 ノ改メラレニコトヲ希望セハルヲ得ズ

以上某等が赤誠ヲ吐露シテ廟堂諸公ノ参考ヲ請ハントスルノ概
 要ナリ諸公ノ賢既ニ之ヲ知ルハ某等ノ固ヨリ知ル所唯ハ切々
 ノ微衷已ムヲ得ズシテ不遜ヲ敢テスルノ言辭屢々禮ヲ失スルモ
 野人ハ即チ可寧テ親切ナリ仰ギ北異クハ深ク之ヲ忤フコトヲ

大正十二年十月十日

東京市外世田谷区

田代

大久保町

田代

東京市外世田谷区

上杉慎吉

東京市外世田谷区

田代

東京市牛込区善久井町二十九番地

田鍋安之助

川島清治郎

三宅三郎

牛込区東五軒町一丁目

川島清治郎

東京市牛込区大塚町辰木橋五三

盛田曉

東京市牛込区大塚町辰木橋五三

貞の義丸

東京府下高田町雜司番七一。

葛生東久

東京市麻布区龍崎町六五

小幡虎右衛門

東京市赤坂区新町五、七

内田良平

東京市赤坂区檜町三番地

葛生能久

東京府下千駄谷系宿三百七番地

川崎三郎

東京府下高田所雜目倉七百十二番地

安井お太郎

〃 定株可自長七〇〇年七番地

櫻井頼三

〃 代々情所情右一三三四番地

中野了介

海軍大臣 財部 彪 殿

おれ一

新帝都奠定ニ関スル主張

吾人ハ平素東京が帝国万世不拔ノ帝都トシテ其ノ地ニアラサルヲ認メ今回ノ震災災ヲ機トシテ茲ニ遷都論ヲ提唱スルモノデアルカ是レ帝宮ニ震災災一時ノ善後策ノミニ止ラス国家万世ノ大計ニ取リテ已ムヘカラサルコトヲ慮カツテコトデアル

維新ノ初メ先帝が京都ヨリ東京ニ行幸セラレ遂ニ帝都ヲ東京ニ奠メサセラレタノハ一時ノ權宜ニ出デタモノニシテ永久不拔ノ帝都デアアル思召テハナカッタロウト思ハレルト即ガアル吾人ハ不世出ノ英主タル先帝が御在世ノ際

朕が百歳ノ後ニ桃山ニ葬レト宣給ハレタ遺
 命ガアツタノニ徴スルモ是レ極メテ味ハネバラヌ
 事デアロウト思フ由来東京ノ地タル東北地
 方ヲ控制スル要地トシテ形勝ヲ占メテ居ルコ
 トハ十有餘年ノ昔ヨリ認メラレテ居ルコトアル
 ガ之ト同時ニ天災ノ多イ地方デアル是レ歴代
 ノ帝都ガ常ニ関西地方ニ奠メラレ関東地方
 ハ早ニ霸府トシテ武將ノ根拠地ト爲ツタ所以
 デアル而シテ豊太閤ガ天下ヲ統一スルニ當リ江
 戶ヲ開キタイト云フ見地ヨリ徳川家康ニ對シ
 關八州ヲ選フルノ條件トシテ居城ヲ築キ江戸
 ヲ開ケト命ジタ譯デアルガ此ノ條件附テ世具ツ

夕所ノ家康ハ天下ヲ掌握スルニ及ンテモ依然
 江戸ヲ以テ其ノ居城トシ遂ニ幕府ヲ開イタノ
 テアル然ルニ徳川三百年間ノ天災ハ安身ニ類
 ヲタルモノデアツテ大概五十年若クハ百年毎ニ大
 地震若クハ大火災が見舞ツテ全市ヲ灰燼ニ付
 スルト云フ災害ヲ被ツテ居ルノデアアル所謂火事
 ハ江戸ノ花ト云ハレタ位デアアルが江戸許リが何故ニ
 火事が多いノカ人家ノ稠密シタ点テ大阪ナドハ
 決シテ江戸ニ譲ルモノテナイ併シ特ニ火事が江戸
 ニ多カツタノハ江戸ハ非常ニ風ノ強イ所デアアルカ
 ラデアアル當ニ風ノ強イノミナラズ又々洪水ノ多イ
 憂カアル所デアアル徳川幕府三百年間ノ歴史

ハ此ノ地震ト水害ト火災トノ三者ト戦フテ来タ
 モノデアアル吾人ノ祖先ハ此ノ三大災害ヲ防クベキ
 経験ヲバ十分ニ嘗メ尽シテアルカラ之ニ對
 スル相當ノ設備ガ整ツテ居ツタノモ事毎員デ
 アル而カモ天災ニ到底打チ克ツコトガ出来
 ナカッタ此等ノ事情ハ英明ナル先帝ガ御
 在世ノ時カラ聖慮ヲ勞方セラレ給フタ事デア
 ヲタコトニ相違カアルマイト思ハレルノデアアル
 柳モ維新ノ初メ政府部内ノ遷都論ニハ
 二派ガアツタ大村益次郎、山田顕義等ハ大
 阪遷都ヲ主張シテアルガ之ニ反シテ江藤
 新平、大木喬任、後藤象二郎等ハ江戸

遷都ヲ主張シ大久保利通ノ如キハ其ノ初メ
 大阪遷都ノ議ヲ建テタノニ拘ラズ終ニ江戸
 遷都論ニ賛成シタ所以ノモノハ當時奥羽
 地方未ダ平定セズ且ツ午有餘年来王化ニ
 雨詔ハサル東北ヲ鎮撫スルニハ帝都ヲ江戸ニ
 奠ムルニ若カザルベキヲ認識シタカラデアル而
 レテ先帝カ江戸遷都ノ議ヲ嘉納セラレ
 遂ニ江戸ヲ改メテ東京ト稱シ帝都ヲ此ニ
 奠メラレ給フタノモ亦タ之レガ爲メデアル果
 セル哉東京遷都ノ英断ハ頗ル當時機
 宜ニ適シ東北ハ申スニ及バズ北海道ノ僻陬
 ニ至ルマデ王化ニ雨詔ヒ王政維新ノ基礎ハ茲

二樹立シタガ火災ハ依然トシテ止ム時ガ無イ共
 ノ如クニシテ東京奠都ノ第一目的ハ達シ得
 ラレタノデアアルガ吾人ハ先帝ニハ将来萬世
 不拔ノ宮城トシテ別ニ帝都ヲ遷サセ給フ
 ノ必要ガアルコトヲ思召サレタノニ相違アルマイ
 ト拝察セララル、ノデアアル
 是ヲ以テ吾人ハ十數年来遷都ノ必要アルヲ
 思ヒ常ニ其ノ研究ヲ怠ラズ同志者ノ間ニ説
 キツ、アツタノデアアル而シテ此ノ遷都ノ必要ト云フ
 ノハ我ガ帝国ノ国防ト經濟ト天災ノ少ナク
 住民ノ安全ニ得ラルトノ三點ガ具備シナケレ
 バナラヌノデアアル抑モ東京ノ地タル其ノ附近地方

ニ日本人ノ常食トスル米穀ヲ産出スル地が少イ
 ノミナラズ僅ニ地方住民ノ生活スルニ足ル生産
 額ニ過ハズシテ米が住民ノ必要以上ヲ産スル諸
 縣ハ群馬長野等ノ一二縣ニ過ハズ故ニ東京
 ノ人口が増加スレバスル程米産地ヨリ東京ニ輸
 送シテ来ラネバナラヌモノハ安負ニ懸シキモノデアツテ
 之レが爲ニ我が貿易上ノ生産能率ヲ減殺ス
 ルコト幾何ナルヲ知ラナイ加之一旦国家緩急
 アル場合ニ於テハ交通線が破壊セラルコトト
 モ爲ラバ帝國ニ糧食ニ乏窮スルノミナラズ三百萬
 ノ市民ハ内部ノ騒動ヲ起スノ危険加之ニ伴
 フノデアル其ノ一例ヲ遼寧タレハ日露路戦争ノ際

浦塩港ヲ根拠トスルニ三隻ノ露艦ガ東京
 湾外ニ逼ツタト云フ時ニ海運ハ直チニ絶タレテ
 糧食ニ困ツタノデハ無イカ今日ハ武畧ノ進歩ト
 云ヒ其ノ他科學ノ發達ト云ヒ決シテ日露戰
 争當時ノ比デハ無イ彼ノ飛行機、航空艦ノ
 如キハ縱横自在ノ威力ヲ逞ウシ陸上ノ交通
 ヲ破壊シ若クハ重要市街ヲ破壊スルニ敢テ
 ハ假令ヒ敵兵ガ上陸セズトモ一大危険ニ陥ルベキ
 ハ言フ迄モナイ事デアル若シ仮リニ我が帝國ガ一
 朝米國トノ國際關係断絶シ西國難ヲ構フルガ
 如キコトガアツタナラバ當ニ以上ノ危急ニ遭遇スル
 ノミナラズ敵兵ハ必ズヤ駿河湾乃至伊勢方湾ニ

上陸スルニ相違がナイ而シテ日本ノ執力ヲ中断
 スルノ策ニ出ツルノデアロウ若シ米國ニシテ此ノ策
 ニ出テタナラバ日本ノ實力ト云フモノハ相根以
 ノ力ハ八分以上ノ富力ヲ占メテ居ルノデアルカラ
 東京ノ保ツ能ハサルハ極メテ觀易キ理歟デア
 ル
 此ノ如キ危險性が伴フテ居ルニ拘ラズ政治家
 實業家等が何等ノ大經綸ナク漫然東
 京ヲ復興スルト稱シテ今日テサヘ頭大振ハ
 ル日本ノ生産能力ヲ減縮サセラレ居ルニ拘ハラ
 ズ尚ホ一層此ノ能率ヲ減退サセヨウトシテ居
 ルノハ國家經濟ノ大高カラ觀察シテ吾人

が轉々寒心スルニ堪へサル所デア
 經濟的能力ノ減縮スルニ國家危急ノ位
 置ト同價値ノモノデア爾昔源賴朝ノ霸府
 ナリカントスルヤ特ニ鎌倉ノ如キ山河形勝地
 ナリ擇ンダ所以ノモノハ如何ナル理由ニ基キイタ
 テアルカ多敷ノ人口ヲ政治中樞ノ地ニ集中
 スルコトハ必ズ惡結果ヲ政治上ニ及ボスヘキコ
 トヲ慮カツテ居ツタカラデア爾流石賴朝ハ政
 治上ニ一雀又眼ヲ有シテ居ツタ大政治家ガ
 ケアツテ諸侯ノ鎌倉ニ入ツテ来ルモノニモ制限
 ナリ爲シテ居ツタノデア爾是ハ政治的都市ヲ
 定ムル上ニ於テ重大視スベキ事柄デア爾此ノ必

西女ハ今日モ尚ホ何等変リナキ事ト信ズル其等
 ノ事情ヲモ審ニセズレテ當代空想ニ耽リウア
 ル學者輩カ多數ノ人口ヲ政治的中央ノ地
 ニ移住サセテ置ケ程國家カ強盛シテアルカノ如ク
 思フテ居ルハ政治的識見ノ比自無テ證スルモ
 ノテアル其等ノ思想ヲ以テ鎌倉ヲ研究シ鎌
 倉ニ幾萬ノ人ハ各々ノ隅マテ入レテモ入レ
 マト云フモノガアルケレトモ是レ政治上ノ要訣ヲ
 知ラサルモノ、言テアル
 故ニ吾人ハ速ニ帝都ヲ東京ヨリ他ニ遷スニア
 ラザレバ國家ハ腦充血ノ爲ニ衰滅スルト云フ
 憂ヲ抱イテ居ルノテアル從來吾人ハ亞細亞

復興ノ天職ヲ有シテ居ル亞細亞ノ復興ヲ圖
 ヲテ西カノ東漸ヲ制シ世界ノ平和ト文明ト
 ニ貢献スルコトヲ天職トシテ居ルノデアアル古来
 帝国ノ神社ハ伊勢太神宮ヲ初メ概ネ南面
 シテ居ルノニ拘ラズ武ノ神デアアル所ノ出雲云大社ノ
 如キ箱崎ハ幡宮、住吉神社ノ如キ其ノ神殿ガ
 特ニ西面即チ亞細亞大陸ニ向ツテ建テラレテ居
 ルノハ最モ味フダキモノデアアル而カモ其ノ大陸ハ皆
 朝鮮ニ向ケラレテ居ル是ニ由リテ之ヲ觀ルモ吾人
 皇祖白王宗ノ六合ヲ兼ネ八紘ヲ掩フト云フ宏
 謨ノ一斑ヲ規フコトガ出来ルノデアアル
 幸ナル哉我ガ帝国ハ 先帝ノ如キ古今傑出

英主が明治ノ御宇ヲ統馭セラレ亞細亞復
 興ノ第一地歩ト爲ルヘキ朝鮮併合ノ大業
 ヲ成就シ其ノ勢力ヲ滿洲ニ扶植シ給ヒ
 今上陛下ニ及ンデ世界大戦ニ參加シ我カ武威
 ナ西比利亞地方ニ輝カサセ給フタ故ニ亞細
 亞復興ノ天職ヲ全ラセント欲セバ滿洲ト西北
 利亞トハ我カ大和民族ノ移植民地トシテ將
 来亞細亞復興ノ地トセヌバナラヌ地方デアリ而
 シテ吾人ハ其ノ亞細亞復興ノ大計ヨリ萬世
 不拔ノ帝都ヲ奠メヌバナラヌデアリ
 然ラバ則チ吾人ハ何レノ地方ガ立國萬世ノ
 帝都トシテ最モ適當デアリカト云フニ五畿内

地ヲ撰擇セズバナラヌ五畿内ノ地タル萬世ノ
 帝都トシテ第一ノ要素タル震災ノ比較的
 少ナキ地方ニシテ而カモ住民ノ生活ニ安定ヲ
 與フルカラテアル第二ニ其ノ地勢經濟的中心
 地タル大阪ヲ控ヘ其ノ附近地方ハ日本人ノ常
 食タル米産ニ富ナルノミナラズ一朝國家有事
 ノ目ニ當ツテモ九州トノ聯絡ト云ヒ交通ト云ヒ
 水陸トモ其ノ機關が完整シ最モ安全ナ區
 域カラテアル第三ニ國防上ニ取リテ外敵ノ
 襲撃ヲ防クニ於テ容易ナルノミナラズ萬一
 敵軍ニシテ駿河湾ナリ伊勢湾ナリニ上陸ス
 ルコトガアツテモ帝都ト經濟的中枢地トナ中

断せらる、如キ痛痒ヲ比較的感ぜズニ濟ムカラ
テアル

吾人が前達スルガ如ク我が帝国ハ亞細亞ヲ
復興ニ亞細亞民族ヲ指導シ世界ノ平和
ニ貢献スルノ天職ヲ有シテ居ル我が帝国ニシテ
其ノ天職ヲ完フセント欲セバ日本海ノ中心點ガ
實質ニ重要ナル位置テアルカラ日本ノ新帝都ヲ
ルモノハ其ノ交通最モ便利ナル地テナクテハナラヌ、
而カモ其ノ日本海モ亦タ一方ニ偏シテハイカラ又日
本海ノ中心點ト云ハバ舞鶴港及ビ敦賀、七尾
港テアル茲ニ短時間ヲ以テ交通出来ル場所ヲ
無クテハナラヌ而シテ其ノ如キ好形勝ヲ占ムル位

置ハ大阪ト京都ト三角形ヲ為ス摂州ノ北方丹
 波ニ隣スル地方ニ之ヲ撰擇セヌバナラヌ又其ノ位置
 ハ摂州武庫郡ノ池田方面ヨリ京都ノ二條ニ
 達スル地方ニ當ツテ其ノ場所ヲ擇ブノカ適當
 デアルト思フ

苟モ新帝都ヲ摂州地方ノ要地ニ築キ舞鶴
 七尾トノ交通機關ヲ完整シ日本海ヲ横断
 シテ西南ハ釜山遼東山東ヨリ南清沿岸ニ
 及ボシ西北ハ元山清津 オセツト湾 浦塩方面
 トノ海路ヲ自由ニ進ニテ大陸ト交通ノ正
 門ヲ元山乃至清津ニシナケレバナラヌ遼東
 半島ノ如キハ我が帝國ノ通用門デアル而シテ

大陸ノ物資ハ首トシテ正門ヨリ出入自由ナラシ
 ムルコト、セバ我が日本海岸ハ非常ナル商業
 ノ殷盛ヲ極ムルコトヲ爲ツテ山陰諸国ハ三ロフ
 ニ及バズ北陸ノ沿岸ハ益々開發シ来ルニ相違
 カ無イ又々青森縣大港方面ハ北宋合衆
 国トノ交通上第一ノ要区ト爲ツテ来ルデア
 ロウ隨テ北海道が開發セラレ、コトハ勿論デ
 アツテ従来ノ如ク箱根以西カ七八分ノ富田力
 ナ有シ其ノ以東ノ地カ二三カシカ無イト云フ
 ヤウナ日本立帝国ニ於ケル富田力ノ不平均カ其
 ノ權衡ヲ得ルニ至ルデアラウ立帝國ニ是レノナ
 ラズ一朝国家有事ノ際外敵カ駿河灣

方面ニ上陸シテ来ルニ際シテモ決シテ日本ヲ
 中断セラル、ノ自愛が無イノテアル
 由來日本ノ地形タル地帯ノ如ク細長ク其ノ中
 央山脈ヲ以テ山陰山陽東海北陸ヲ劃シテ
 居ル後令ヒ敵ガ東海道ニ上陸スルトモ北陸
 道ハ尙ホ交通スルニ足ルノミナラズ日本海ハ實
 ニ安全ニシテ交通ハ自由ニ出来ルカラテ敵ノ上
 陸スルヲ驅逐スルニ充カナルカヲ展ブルコトガ
 出来ルノテアル蓋シ日本ノ經濟的執力カハ立
 国ノ国是ヨリ云フモ之ヲ西大陸ニ求メナケレバナラ
 ヲ東對岸ノ大陸ハ單ニ我ガ市場タルニ過ギ
 又ノテアル而シテ其ノ市場ニ出スヘキ生産ヲ主トス

我カ帝国ノ基礎ヲ樹立セントスルハ辟言フル
 ニ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルカ如シテアル
 世上ノ論者口ヲ開ケバ動モスレバ立国ヲ叫
 ンデ居ルガ現在ノ帝国ハ商工立国トシテ何等
 ノ基礎ヲ有セヌノデアアル日本ニハ製衣造スヘキ何
 等ノ原料ヲ有セズ單ニ他国ノ原料ニ頼リテ
 之ヲ製衣造シ他国ニ販賣シ居ルニ過キ又故ニ
 一朝關稅ノ引上等ニ遇ハハ日本ハ到底其ノ
 競争ニ打テ克ツコトが出来ヌ故ニ日本商工
 立国ハ所謂ル砂上ノ樓閣ニ等シキモノデアアル
 今日ニ當リ真ニ商工立国ノ基礎ヲ樹立セ
 ント欲セバ其ノ原料品ヲ自国ノ勢力力圍困

内ニ産出シ之ヲ制衣造シテ販賣セシメバナラヌ
 此ノ高工立國策ヲ實現スルニハ宜シク其ノ
 根拠地ヲ西大陸ニ求メシメバナラヌ西大陸ト
 曰本帝國トノ聯絡ヲ完ラシメ經濟的執力
 カノ發展ヲ圖ルニハ實ニ新帝都ノ撰定カオ
 一義ヲ無ケレバナラヌ
 世人或ハ新帝都トシテ大阪若クハ京都或ハ
 廣嶋ヲ擇ブヘト云フモノモアルカ大阪ハ經濟
 的の要區トシテ形勝ノ位置ヲ占ムルモ政治的
 ノ都市トシテハ適當デナイ加フルニ其ノ風俗
 人情トモ餘リニ高貴的ニ偏シテ新帝都
 規模ヲ立ツルニ不可テアル京都ハ桓其天

皇王以來歴代帝王ノ首都ト爲ツテ維新ノ
 初ノマテ繼續シテ来々其ノ地形編少ニ
 テ全国ノ中心トスルニ足ラサルノミナラズ其ノ風俗
 柔弱ニシテ剛健マ勇武ノ氣象ヲ欠イテ居ル
 廣嶋ニ至ツテハ全然次資格ナキノ地ニシテ日本
 帝國ノ新帝都トシテハ適當ナリト謂フコト
 が出来ナイ苟モ今日ニ當リ日本帝國ノ爲
 ニ萬世不拔ノ帝都ヲ奠メント欲セバ京阪
 地方以外形勝ノ地ヲ撰ヒ政治經濟外交
 国防教育社會ニ亘ル改造的新經綸
 策ヲ實現シ天下ノ耳目ヲ洗滌スルノ勇力斷
 ニ出テスバナラヌ東京ハ帝都トシテ王化ヲ

東北ニ弘布シ維新當初ニ於ケル第一ノ
 目的ヲ達スルコトが出来タケレドモ今ヤ中
 央集権ノ弊ヲ打破シ西大陸ニ對スル新
 経綸策ヲ安貞現セント欲セバ新帝都ヲ
 京阪ト三角形ヲ成セル揚州地方ニ眞大メネ
 バナラヌ顧フニ先帝カ御陵ヲ桃山ニ撰
 擇セラレ給フタ深意ノ在ル所ヲ採察シ
 奉ルニ就テモ吾人ハ今日ノ大震災ヲ機トシ
 テ遷都ノ已ムヘカラザルヲ主張セヌバナラヌ遷
 都ハ國家萬世ノ大計ヨリ断行セヌバナラヌ
 若シ夫レ震災後ニ於ケル帝都ノ復興ハ復
 々安貞ニ容易ノ事テナイノデアル況ニヤ遷都

良平目ニ於テハ其ノ安貞現ヲ期ニ難キハ言フ
 迄モナキ事ヲアルガ今固ノ災害コソ貞ニ所
 謂ル禍ヲ變ビテ福ト為ス絶好ノ機会自テ
 アル吾人カ天下ニ高ト先ニテ之ヲ主張スル所以ノ
 モノハ方曾ニ震災火善後ノ措置道トシテ一時ヲ彌
 縫スルガ為メノ之ヲハ無イ安貞ニ國家萬世ノ大
 計ヲ安貞現スルガ為ニ己ム可カラサルヲ認メテ居
 ルカラデアアル

大正十二年九月

黒龍會自主幹内田良平

別紙ニ

後藤内相ニ呈スルノ書

謹シテ後藤内務大臣閣下ニ建言ス思フニ震災善後ノ大策ハ
廟算既ニ定マルモアラシ一介ノ學究ヲ以テ敢テニヨ議スベキ非
ズト雖モ閣下ノ銳意國民多数ノ希望ノ存スル所ヲト知セントモ
ラルルニ急ナルヲ顧ヘバ又黙シテ己ムベキ非ズ之レ自ラ恐レカ聊カ
匆匆荒言ヲ捧クル所以ナリ希クハ之ヲ諒セラレニトシ

今ヤ帝都遷移ノ説頗ル聞ユ某ヲ以テ之ヲ見ルニ事甚カ宜
ニ當リ今ノ人心不安ノ秋ニ方リ輕キク遷都ヲ説キテ動搖ノ端
ヲ開クハ甚カ慎ムニト雖モ百年ノ大計ハ遲疑スル所ナク早キニ方リ
テ速ニ断行スルニ非ホレハ悔ヲ後世ニ貽サントス凡ソ遷都ノ議ヲ
今次ノ震災ヲ以テ偶々初メルニ非ズ識者ノ夙ニ之ヲ唱フル者アリ其
理由トスル所ニシテ是ラズト雖モ其ノ主クルモノ凡ソ尤記ノ數項ニ在リ

一、東京ハ将来戦争ニ於テ海面及ビ空中ヨリスル防禦ノ上ニ於テ甚カ薄弱危険ナルコト

一、東京ハ帝國ノ中心ヲ離レテ餘リニ東北ニ偏セルコト

一、從テ将来大陸及ビ大洋ニ於テスル帝國ノ活動ノ爲メニ甚ク便ナラザルコト

一、東京ハ武將霸業ノ地ニシテ帝都タルノ歴史的的精神的要素ヲ缺ケリ明治ノ初茲ニ帝都ヲ奠クタルハ主トシテ一時ノ權宜ニ出テ以テ萬世ノ基礎ト爲スベキニ非ハルコト

一、政治ノ中心ト高工業ノ中心トハカメテ之ヲ分離スルニ依テ無用ナル民心ノ動搖ヲ防クコトヲ得ルニ現代經世家ノ最モ留意スベキ所ナリトス政変ノ爲メニ勞資ノ擾乱ヲ誘起シ又ハ反對ニ勞資ノ紛議ノ爲メニ政局ヲ煽乱スルハ将来國家福根ノ存ス所

ナリ米國建國ノ政治家ガ華府ヲ遠ク商工業地域ノ外ニ置ケル
 ノ賢明ナル遺策ニ倣フノ必要ハ今後益々多クナルモノアルコト
 一、東京ハ四時ノ氣候適順ナラズシテ以テ健康地ト爲スベカラハル事
 一、東京ハ地盤概ネ脆弱ニシテ文明的都市ノ建設ニ適セザルコト
 以上ノ理由ハ以テ平常時ニ於テモ偉大ナル經政家ノ一大英断ヲ待
 ツベシト爲ス然ルヲ今大震災ニ遭ヒ帝都殆ト覆滅ス之ヲ俾
 トスルニ非ズト雖モ災ノ漠々ナル燒ホノ上ニ不安ナル人心ヲ督勵シ
 数十億ノ巨費ト数年ノ歲月ヲ費シテ東京ヲ復興スルノ計畫ノ
 複雑ト實施ノ困難トハ新地域ヲ劃定シテ政治都市ヲ建設
 スルノ簡單ト容易ナルニ如カサルハ識者ヲ待テ而シテ後知ラハル
 リ今ニ及ニテ一大英断ヲ以テ國家萬世ノ大策ヲ定メ永ク後
 昆ヲシテ大正聖代ノ大業ヲ仰ガシメシニハ再ビ得ベカラハル絶好ノ

機會ナリト云フベシ加之凡ソ帝都ノ建設ノ事ノ如キハ独リ東京
 及ビ附近ノ住民ノ利害ヲ以テ決スベキニ非ズ奉國全國民ノ頭上ニ
 繫ルノ國家問題タルハ言ヲ俟タズ今若シニソ全國ノ輿論問ハ
 必ズヤ國民ノ七八割ニ當ルノ大多數ハ遷都ヲ可ナリトセシ正ニ是レ
 閣下カ常ニ科學的基礎ノ上ニ熟慮シテ天才的斷行ヲ爲スノ
 英明ノ天資ヲ試ミラルルノ好事業ニ非ズヤ希スハ速ニ廟堂諸
 公ヲ率井以テ國民ノ輿望ニ副ヒ百世ノ大計ヲ定ムルノ決心ヲ宣メ
 ラレニコトヲ若シ夫レ何ノ地ニ奠都スベキカ及ビ其ノ方策如何ノ如キ
 ニ至リテハ遷都ノ議一ヲビ決セハ閣下ノ統制ノ下ニ衆智ヲ集メ
 善ク謀リテ自ラ定マルモノアラシ今ハ速ニ遷都ノ根本方針ヲ
 決定スベキノミ不遜ノ言己ムヲ得ルハ出ツ閣下海岳ノ量希
 タハ之ヲ寬容セラレニコトヲ(大正二年九月十日 上杉 慎吉)